ＡＣＭＦ　2026　in　にかほ市

ＡＣＭＦ2026inにかほ市

９月26日と27日の２日間、秋田キャラバン・ミュージック・フェス（ＡＣＭＦ）２０２６inにかほ市が象潟グラウンドを会場に開催されました。このフェスは、横手市出身のシンガーソングライター高橋優さんが「音楽の力で秋田を盛り上げよう」と２０１６年にスタートさせた地域密着型の野外音楽フェスです。今回のにかほ市での開催は８回目です。

フェスの２日間は天気にも恵まれ、トンボが舞う絶好のフェス日和となりました。主催者発表で、両日合わせて１万６千人の観客が訪れ、ステージ右手に鳥海山を仰ぎ、夕方過ぎには東の空に満月を眺めることができ、にかほ市の景色が存分に取り込まれたおもてなしとなり来場者のみなさんに大いに喜んでいただけたものと感じています。実際、フェスが終わってからの数日間、さまざまな人々の興奮冷めやらぬ声がＸやインスタなどのＳＮＳにあふれかえっていました。しかもその声は決して若者たちからだけではなく、年配のみなさんからも発せられ、「高橋優さんの秋田愛、出演者の温かさと熱量に感動した」といった声が多数見られました。まさに「音楽の持つ力」の大きさと可能性に多くの人があらためて気づく機会となったのではないでしょうか。かく言う私も、今回のＡＣＭＦに感動し、音楽の持つ力強さ、ミュージシャン高橋優さんの魅力に心底やられた一人です。

高橋優さんの思いとは

高橋優さんが秋田キャラバン・ミュージック・フェス（ＡＣＭＦ）を始めたきっかけは、２０１５年の「あきた音楽大使」への就任でした。もともと高橋優さんは「人口減少率や高齢化率が全国１位とされ、気分が落ち込んでいる秋田の人々に元気になってもらいたい」との思いを持っていましたが、その思いをどのように表現し、一つの大きな流れにしたらよいのか考えあぐねていました。そんなときに音楽大使に任命されたことで、自ら持つシンガーソングライターとしての力、プロのミュージシャンとしての技を存分に使い、ふるさと秋田を元気にする絶好の機会と捉え「ＡＣＭＦ」を具体化していったわけです。

ここまでのお話は、本人との対話や、これまでの発言を見返したうえでの私の意見です。ですので、仮に本人の思いと多少のズレがあったとしても、私から確実に言えることは、高橋優さんのふるさとに対する熱い想いは「ホンモノ」だということです。だからこそ他の多くのミュージシャンやタレントのみなさんがこのフェスに参加し、高橋優さんを通じて秋田を応援してくれるのだと思います。

ＡＣＭＦの意義

この秋田キャラバン・ミュージック・フェス（ＡＣＭＦ）の最大の特徴は、毎年開催地を変えて県内13市をめぐる「キャラバン（巡回）型」であるところです。このフェスは「移動する秋田の地方創生プロジェクト」と言われ、開催地の自然・食・文化などの特徴が地域の魅力として同時に発信されるなど、自治体による地方創生の取組みをバックアップするものにもなっています。

さらに、このＡＣＭＦは「秋田には何もない」といった後ろ向きの気持ちを、「そんなことはない。秋田には豊かな自然・文化、美味しい食べ物、そして何よりも個性豊かな人々がいっぱいいる」という前向きな気持ちに変えていくんだといったメッセージを音楽の力で、まずは秋田の人々に伝えていこうとするものでもあります。それはまさに故内館牧子さんがずっと訴え続けていたメッセージでもあります。

また、このＡＣＭＦが「温かみのあるフェス」と言われるのは、主催者だけでなく、地元の人たちも誇りをもって、県内外から来られたお客さんを歓迎しようとする気持ちでいっぱいだからだと思います。そしてそれが地元の人々の自信になり、延いては自分自身を肯定する気持ちへとつながっていくことになる、それこそが今回のフェスの最大の効用であり、意義だと私は思います。



にかほ市長
市川雄次

市政運営から日常の出来事まであらゆるテーマをコラムにしています。過去のコラムは市ＨＰからご覧になれます。